

平成 28 年(2016 年)熊本県熊本地方を震源とする地震
非常災害対策本部会議(第10回)議事録

日時:平成28年4月19日(火)16:59~17:22

場所:官邸4階大会議室

1. 内閣総理大臣 発言

(内閣総理大臣)

- 昨日から本日にかけて、連絡が取れなくなっていた方3人が発見された。御冥福を心より、お祈り申し上げます。大量の土砂を取り除きながらの搜索は困難を伴うが、自衛隊や警察、消防、海上保安庁などにおいては、引き続き、救出を待ち望む御家族や御友人の想いを胸に、救命・救助活動に全力を挙げていただきたい。
- 被災者の支援についても、現場の皆さんが昼夜を分かたず頑張ってくれている。今日も厳しい交通状況の中、献身的に陸路で物資を搬送してくれている流通業者の皆さんと自衛隊や警察が協力して、被災者の命をつなぐ水や食料を被災地に届けてくれている。電力の復旧も進み、一部の停電している地域にも、全国から集めた電源車を配備した。
- 熊本空港は、今朝から一部の旅客便の運航を再開し、博多・熊本間の在来線も復旧した。
- しかしながら、まだまだ十分と言うには程遠く、引き続き、「被災者のために何ができるか」という視点で、様々な支援策を、加速化していかなければならない。
- 全国の自治体からの応援職員が、第一線で頑張っている市町村を支えるため、続々と現地入りしてくれている。国としても、昨日の3市町村に加え、特に要員が不足している被災自治体に対し、一両日中に、更に職員を投入する。被災自治体と一体となって、被災者の生の声に十分に耳を傾けて、対応に当たっていくこと。
- 最初の地震発生から丸4日以上が経ち、被災者の方々の心と身体のケアについても、気を配らなければならない。とりわけ、エコミークラス症候群の防止が急務。直ちに採り得る応急の措置として、既に、地元の保健師等による巡回指導に加え、全国から駆け付けてくれた、50名を超える医師や看護師の皆さんによって、車の中で睡眠をとる方々に対し、「寝る前に意識的に水分を摂る」など、エコミークラス症候群の予防法についてのチラシの配布を始めていただいている。今日の夜までに、被災者に広く、周知していくこと。
- エコミークラス症候群を始め、避難所等での不自由な生活に起因する問題を、根本的に解決するためには、住環境を早急に整備する必要がある。避難所からの移動先として、既に、約 1,500 の宿泊施設、2千戸を超える公営住宅や、約 1,500 戸の民間賃貸住宅を確保している。高齢者や慢性疾患を抱える方など、特に配慮を要する被災者で、自宅に戻れない方々から、できるだけ早く入居していただけるよう、被災者の状況や要望等に応じて、適切に割り当てる取組を、被災自治体とともに、早急に進めていくこと。
- さらに、避難所周辺には、ごみが溜まってきており、健康・衛生面の悪影響が懸念されることから、仮置場を40カ所へと倍増し、全国からの応援部隊の第 1 陣として、神戸市からごみ収集車6台が近く、益城町を始め、現地に入る見込み。
- 被災者の状況は、刻一刻と変化する。「今、被災者が求めているものは何か。」このことを常に主体的に考

えながら、被災自治体と一体となって、引き続き、被災者の具体的な状況に応じた、スピーディーな機動的な対応に、全力を挙げていくこと。

2. 被害状況及び各省庁の対応状況について

(警察庁)

- 死者は 45 名。消防と自衛隊と連携して対処している。
- 南阿蘇村の 2 カ所で捜索・救助活動を行っており、救助を要する者が計 4 名。
- 交通部隊を派遣した。高速道路の渋滞は全て解消されている。国道 3 号線の渋滞はほぼ解消。
- 政府の支援物資車両をパトカー等で先導。

(総務省)

- 総理から御指示のあった普通交付税の繰上げ交付について、昨日時点で 16 市町村と熊本県から要望を頂いており、当該 17 団体には今週中に交付決定を行う予定。
- 人的支援については、熊本県と熊本市以外の 8 市町村に本日より明日までに 194 名の職員が派遣される。熊本市には既に 120 名派遣されているが、本日より明日で計 384 名が派遣される予定。
- メール、ツイッターによる総務省への意見を集約した。マスコミへの苦情が多いのだが、物資が届いていないという声もある。
- 熊本行政評価事務所に、明日、災害専用フリーダイヤルを設置する予定であるが、政府として窓口を一元化した方が効率的と考えるので、検討願いたい。

(防衛省)

- 資料の表紙にオスプレイの写真を載せている。全体として 100 カ所に物資を輸送した。
- 給水ポイントを 32 カ所から 90 カ所に、給食ポイントを 19 カ所、入浴ポイントを 3 カ所から 7 カ所に増やした。
- 関係者の協力のおかげで物資は順調に運んでいる。
- 米軍の協力について、本日、ケネディ駐日米大使に謝意を伝えた。

(厚生労働省)

- DMAT122 隊に加え、JMAT ほか内科医のチーム計 34 隊が出動中。
- 全医療機関と連絡を取ることができ、必要な患者搬送も完了した。
- 人工透析ができない患者が 2000 人いたが、900 人まで減った。
- 保健師チームによる健康相談や薬剤師の部隊が回り、健康相談や薬の供給をしている。また、受診が困難な場合には、処方箋なしで慢性疾患の薬を渡せるようにした。
- DPAT を 13 部隊に増やした。
- エコノミークラス症候群に関するチラシを自衛隊、消防、ガソリンスタンド、コンビニエンスストアに協力いただき配布している
- ノロウイルスにも対応している。断水は約 44 万戸だったのが 11 万 9000 戸までになった。

- 水道管について、熊本市内は復旧しつつあるが、熊本以外は倒壊家屋の影響で作業が難しく給水車で対応している。
- ボランティアの受け入れについて、知事と相談している。ホテル、旅館に高齢者が優先的に入れるよう手配中。

(農林水産省)

- 自衛隊、民間業者に協力いただき食料を輸送している。本日 41 万食を順次発送することとしている。
- 20～22 日には計 90 万食輸送予定。被災者のニーズを踏まえ、バリエーションを増やしていく。

(経済産業省)

- 本日 15 時現在、熊本県内は、阿蘇市、高森町及び南阿蘇村を除いて停電解消。停電戸数は、約 1 万 2000 戸まで減少、明日中に解消する予定。
- ガスも約 10 万 5000 戸で供給停止中であったが、明日中には 6,700 戸について供給を再開する予定。
- ガソリンも熊本県の供給問題はほぼ解消。
- コンビニは9割、スーパーも7割が復旧し約 70 万食を供給している。

(国土交通副大臣)

- 新幹線は、運休しているが、明日から新水俣—鹿児島中央間で試験運行を実施しており、問題がなければ明日から運行再開予定。
- 博多—熊本間は、平常の8分の1まで回復している。
- 高速道路は福岡—熊本間の物流の動脈が回復し、被災地に物資を輸送する車両が通行可能。
- 熊本空港は、本日から運行を再開しており、到着便は 19 便で 15 時から出発便は6便運航予定。
- 公営住宅に関して、全国の都道府県に対し、空き住戸の照会中。
- 食料については自衛隊により、その他の物資については民間により輸送している。

(環境省)

- 仮設トイレでは、し尿が 1 日約 200 キロリットル発生。現在、県内 20 施設で受入れを実施中。
- 集積所で山積みとなっている生活ごみ・片付けごみについて、特に課題となっている益城町に全都清を通じて神戸市から 6 台の派遣を要請。
- 月内にも本格化が想定される災害廃棄物対策について、発生量の推計、自治体による処理計画の策定支援を開始。

(防災担当大臣)

- 総理も述べたエコノミークラス症候群、アレルギーを持った子供に対してもしっかり対応していただきたい。
- 避難者等に政府の動きを周知していくことにしている。
- 700 箇所の避難所情報を一括管理できるシステムを IT 企業の支援を得て開発している。経済産業省からは情報発信をしていただいて感謝。皆様もこれからの見込みも含めて積極的に情報を発信していただきたい。

以上